

響け念仏 北の大地に 本願寺帯広別院だより

〒080-0803 帯広市東3条南5丁目3 TEL: 0155 (23) 3720
FAX: 0155 (21) 4989 発行人: 輪番・仲尾信博

別院ホームページ
<http://www.betsuin.jp/>

2023
(令和5)年
5月号



ホームページをリニューアル

別院のホームページを全面的にリニューアルしました。
より使いやすくなるように、デザインとページの構成を見直しました。また、パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレットでの表示にも対応しましたので、どこでも気軽にご覧いただけます。
別院の様々な情報を、これまで以上に、より良くお伝えできるよう、努めてまいります。



令和4年度募金の報告

昨年度に別院がお預かりした募金は左の通りです。浄土真宗本願寺派各部署に送金させていただきます。
・東日本震災 11,509円
・ウクライナ支援 43,697円
・子どもたちの笑顔のために募金 12,400円

「子どもたちの笑顔のために募金」は浄土真宗本願寺派による「御同胞の社会をめざす運動」(実践運動)の一環として行っています。集められた募金は、①世界の子どもの笑顔を支援(ネパールやウクライナの別院受付にも掲示している募金のポスター)



慶讃法要はじまる

3月28日(火)午後3時、本願寺御影堂においてご門主さまご臨席のもと、「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗

慶讃法要はじまる

800年慶讃法要」の開始式が執り行われ、5期30日間のご法要がはじまりました。続いて献茶式が、古儀茶道敷内流家元の允齋斎竹卿紹智宗匠によって厳かに行われました。
翌29日(水)からは全国各地から門信徒の皆さんが参集され、新しく制定された「新制御本典作法」がお勧めされています。この作法は聖人によってお念仏のみ教えの真意が開顕された浄土真宗の根本聖典『顕浄土真実教行証文類』(教行信証)から御文が選定され、伝統的な声明による第一種と、親しみやすい節の第二種があります。堂内には、念仏の音が響き渡り、聖人のご誕生がお祝いされました。
本願寺のホームページでは、ご法要の様子をライブで配信しています。どうぞご覧ください。



津村拓信

着任のご挨拶

子どもたちを支援、②子どもたちの居場所づくりを応援(子ども食堂や学習支援等の活動助成金として活用)、③施設で暮らす子どもたちの笑顔を支援(本派加盟施設の在園者・卒園者の支援)に使われます。今後ともあたたかなご協力をよろしくお願いいたします。

このたび、本願寺鹿児島別院から7年9か月ぶりに、ふたたび着任させていただきました。
鹿児島島の地で学んだことを活かしてまいります。
どうぞよろしくお願いたします。

5月のご案内

月例布教 1日~3日 13時半<本堂> 常例布教 13日~16日 13時<講堂・本堂>
宗祖月忌法要 15日・16日 13時<本堂>
初参式 21日(日) 9時半<本堂> 降誕会 21日(日) 10時<本堂>

親鸞聖人御誕生
850
立教開宗
800

慶讃法要

法要期日 2023 (令和5) 年

【第1期】3/29(水)~4/3(月) 【第2期】4/10(月)~4/15(土) 【第3期】4/24(月)~4/29(土)
【第4期】5/6(土)~5/11(木) 【第5期】5/16(火)~5/21(日)

三宝 さんぼう

「あなたのお宝を教えてください」と聞かれたら何と答えますか。財産や家、培ってきた名誉と答える方もいるでしょう。このように人の想像する宝は、手に入れても「もっともっと」と満足できないものばかりです。◆『日常勤行聖典』の冒頭の礼讃文には「三宝に帰依したてまつるべし」と示されています。聖徳太子は「篤く三宝を敬うべし」と言われ、三宝とは「仏(仏陀)、法(仏の教え)、僧(仏道を歩む人の集まり)なり」と続けられました。仏教の宝は仲間との出会いに恵まれています。私の喜びが他の方の喜びとなり、他の方の喜びが私の喜びとなる。真の宝とは、こういったものなのでしょう。◆5月は初参式や降誕会といった喜びの季節です。真の宝を一緒にしませんか。(松原)

七条袈裟寄贈



寄贈された晒谷さんと完成した七条袈裟(右・右下) 晒谷さんへの感謝状贈呈式(下)

昨年9月23日、ご門徒の晒谷純代さんが75歳を迎えられ、喜びの法要を本堂にてお勤めしました。法要を記念し、晒谷さんから別院へ七条袈裟を寄贈いただきました。このたび七条袈裟が完成しましたので、4月15日(土)本堂にてご披露させていただきます。*七条袈裟とは、法要や葬儀に僧侶が着用する礼装です。

さくら保育園入園式



4月1日(土) 竜谷保育会「さくら保育園」の入園式が行われました。渡辺浩美園長は新入園児に「さくら保育園には園庭にリス、近くの木にキツツキさんたちが遊びに来てくれます。近くにはグリーンパークもあり恵まれた環境なので、毎日一緒に遊びましょう」と挨拶されました。在園児からも「新しいお友達、入園おめでとうございます。これから仲良く遊びましょうね」と元氣よくお祝いの言葉が述べられました。



帯広幼稚園入園式



花曇りの4月12日(水)、第88回目となる帯広幼稚園の入園式が行われました。今年度は新たに早川一之園長を迎え、教育目標に「良く聞き、よく考え、たくましく、思いやりのある『仏の子』を育てる」を掲げ、新入園児29名が新たなスタートを切りました。3年ぶりに、新型コロナウイルス



に配慮しながらも、年長さんからの祝いのおこぼれや全園児による歓迎の合唱などがあり、笑顔あふれる入園式となりました。

本堂屋根修復にかかる現状調査実施



「赤いお屋根」と、帯広市民からも長きに亘って親しまれてきた別院本堂の屋根。塗装のハガレが顕著になり、3月17日(金)、修復工事にかかる現状調査を実施しました。現在の屋根は1994(平成6)年に赤いカラー鋼板で葺かれたものです。調査当日は専門の業者を交え、27メートルの高所作業車を用い、一日をかけて調べました。調査結果は、今後随時、本紙で報告していきます。

ご法話



お迎えを待つ?

文：桐林一紀

「ご門徒さんとお話ししていると、「そろそろお迎えがくるかと待ってるけど、なかなか来てくれないわ」とお聞きすることがあります。先に亡くなられた方が迎えに来てくれるのを待っている、ということなのでしょう。

仏教ではお迎えを来迎といいますが、阿彌陀さまが雲にのって、多くの菩薩さまとともに来られる絵を見た方もおられるかと思いますが、この絵を来迎図といいます。しかし、親鸞聖人は「消息(お手紙)に、「真実信心の行人は、撰取不捨のゆゑに正定聚の位に住す。このゆゑに臨終まつことなし、来迎たのむことなし。信心の定まるとき往生また定まるなり」(真実の信心を得た人は、阿彌陀さまが撰取つてお捨てにならないので、正定聚の位に定まるのです。臨終の時まで待つ必要ありませんし、来迎をたよりにする必要はありません。信心が定まるとき、往生もまた定まるのです)と記されています。聖人は、来迎は修行して臨終の時に助けてもらおうとする自力の教えであり、阿彌陀さまの教えではないとされます。弥陀のご本願に抱かれた他力の念仏者は、今ここで確かな救いのはたらきに出会い、浄土往生が決まった身ですから、臨終を待つことなく、来迎をたよる必要もない、といわれるのです。今を生きる私たちに阿彌陀さまはいつでもどこでも、はたらき続けてくださいます。そのおはたらきにより、私たちは迷うことなく、お迎えを待つことなく(即得往生)仏とならせていただく人生を歩ませていただきますように。

5月 オススメの一冊

『みんないのちのおかげさん』

じいじからあなたへの手紙

著者 中川真昭
本願寺出版社 刊/1996頁
1430円(税込み)

タイトルにひかれて手に取った。「この本は、私の愚痴がいつばいつまった、くずかごにすぎんと思うております。どうぞ、あなたの手で、くずかごをひっくり返してみてください。くずの中に、ひよっとして、一つ二つ、捨てられんものも混じっているやもしれん、と思うのは私の欲ばり心(貪欲)であります」で、一気にひかれた。なぜ私は生まれてきた? やり残したこと、は? ともだちと思う存分話したか? 家族と笑顔になったか? 自分を振り返る時間となった。学校でも会社でも教えてくれない大事なことを、中川じいじが私にやさしく語りかけ、そっと背中を押してくれます。(池上)